

としょかんがすすめる夏休みの本（3・4年向き）

『しりとりボクシング』
新井 けいこ／作 小峰書店
（913ア・シ）

恭平たちは、学校の行事で、「しりとり大会」をすることになりました。しりとり大会には親も来るので、しりとりが苦手な健太は、「はじをかきたくないなあ」と心配します。そこで恭平は、健太としりどりの特訓をすることにします。



『ジャコのお菓子な学校』
ラッセル・オスファテル／作
文研出版（953オ・ジ）

食べることが大好きなジャコは、図書館でクッキーの作り方をみつけて、がんばって書き写して帰ります。そして、わからないことを聞きながら、はじめて一人でクッキーを作ってみました。その味は、最高！！それからジャコは、毎週いろいろなお菓子を作るようになります。そうしたら、苦手だった算数や、長い文章も苦手じゃなくなってきました。



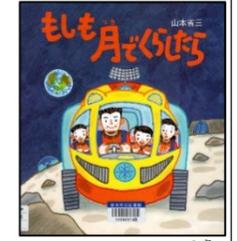
『レンタルロボット』
滝井 幸代／作 学研教育出版
（913タ・レ）

学校の帰り道に、「ロボットかします」という店を見つけた健太は、自分のおこづかい全部と引きかえに、ツトムという第1ロボットを借りました。最初はとっても楽しかった健太でしたが、そのうち、お兄ちゃんとして、我慢しないといけないことがいろいろ出てきて…。



『もしも月でくらしたら』
山本 省三／作 WAVE出版
（446モ）

そう遠くない未来に、月には宇宙基地ができて、人が暮らすようになるらしい。でも、月での生活ってどんな感じなのかな？ 空気や水や食べ物はどうするのか？



『わたい鳥』
鈴木 まもる／作・絵
童心社（Eス・ワ）

毎年、季節になると、世界中でたくさんわたり鳥たちが生まれた所へ帰っていきます。どうして、わたり鳥たちは長い距離を飛んで移動するのでしょうか？ 113種類のわたり鳥の旅を描いた絵本です。



『とっておきのはいく』
村上 しいこ／作 PHP 研究所
（913ム・ト）

連休前に、俳句を作る宿題を出されたつよしは、家族についてので俳句を作りましたが、それぞれの欠点をよんだものばかりになってしまいました。でも、次の日に動物園に連れて行って貰って、俳句を作ってみたら…。



『さかさ町』
F. エマーソン・アンドリュース／作
ルイス・スロポドキン／絵
岩波書店（933ア・サ）

リッキーとアンは、おじいちゃんの家に行く途中、線路の事故のために汽車が進めなくなってしまったので、しばらく「さかさ町」で過ごすことになりました。でも、この「さかさ町」は、なにもかもが、ふつとは反対のおもしろい町で…。



『しっぽがない！』
犬塚 則久／文 大島 裕子／絵
福音館書店（481シ）

いろいろな動物が通う「りくのうえ学校」の授業で、「骨のある動物のとくちょうの一つは、しっぽがあること」と先生が言いました。でも、ヒトのあだちさんと、コアラのふくろいくんには、しっぽがありません。どうしてなのかな？



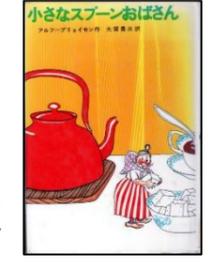
『ふしぎの時間割』
岡田 淳／作絵 偕成社
（913オ・フ）

学校で起きた、ふしぎな物語の本です。朝、遅刻しそうになっただけは、水そうの金魚に「おはよう」言われます。その後、1時間目に保健室へ行くみどりは、言葉が話す黒ねこと競争をします…。そんなふうに、ふしぎで楽しい物語が放課後まで続いていきます。



『小さなスプーンおばさん』
アルフ・プリョイセン／作
学研（949ブ・チ）

時々、体がティースプーンくらいの大きさに縮んでしまうおばさんのお話です。でも、小さくなくても、このおばさんはちっともあわてません。頭を使って、小さい体のまま、そうじゃ料理をきちんとするし、いろいろな冒険もします。



『自転車がほしい！』
マリバス・ボルツ／文
ノア・Z. ジョーンズ／絵
光村教育図書（Eジ）

みんなは自転車を持っているのに、自分だけ持っていないルーベン。でも、家にはあまりお金がないので買ってもらえません。そんなある日、ルーベンは女の子が落としたお金をひろいます。それは自転車が買えるくらいの金額でした。ルーベンは、そのお金で自転車を買おうかと悩みますが…。



『ココロ屋 つむぎのなやみ』
梨屋 アリエ／作（913ナ・コ）

クラスの子に意地悪をされたつむぎは、「負けないように、ココロを入れかえたい！」と思います。すると、「ココロ屋」がやってきました。店の中には、いろいろなココロがならんでいます。つむぎは自分のココロを「意地悪なココロ」と入れかえてもらうことにしました。



『先生、しゅくだいやすめました』
山本 悦子／作 童心社
（913ヤ・セ）

宿題をわすれていたゆうすけは、先生にウソのできなかった理由を言いました。すると先生は、「ウソをつくなら、もっと上手につかなくちゃ」と言います。そこで、ゆうすけは、次の日も宿題をしないで学校へ行き、できなかった理由を上手に話すことにしました。



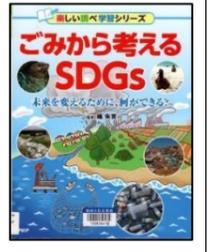
『絵くんとことばくん』
天野 祐吉／作 大槻 あかね／絵
福音館書店（727エ）

「おこづかいをあげて」というポスターを作って、おかあさんをお願いすることにした優太。すると、頭の中で「ことばくん」と「絵くん」がいろいろなアイデアを出してきます。さて、どんなポスターができたかな？



『ごみから考えるSDGs』
織 朱實／監修 PHP 研究所（518ゴ）

SDGsは、地球でくらすすべての人が、より幸せに生活していける世界を作るための17の目標です。この本は、いろいろなごみの問題を取り上げて、その目標を達成するためには、どんなことをしていっていいのかわかしてくれます。



『三ねんねたろう』
おおかわ えっせい／ぶん
わたなべ さぶろう／え
ポプラ社（Eワ・サ）

あるところに、「ねたろう」と言われている若者がいました。ねたろうは、前はとてもよく働いていましたが、ある時から、何もしないでねたばかりになりました。でも、三ねん三つきたった時に、むっくらおきて、村の人々にあることを言います。

